

向島川樋門整備説明資料



平成26年10月31日
国土交通省 出雲河川事務所

1. 前回の会議での審議事項

①転落防止柵のデザイン

- ・操作台上に設置される開閉装置，操作盤，転落防止柵等が煩雑な印象を与える懸念があるため，転落防止柵のデザインをシンプルな縦柵形式とする。

②ゲート扉体の配色

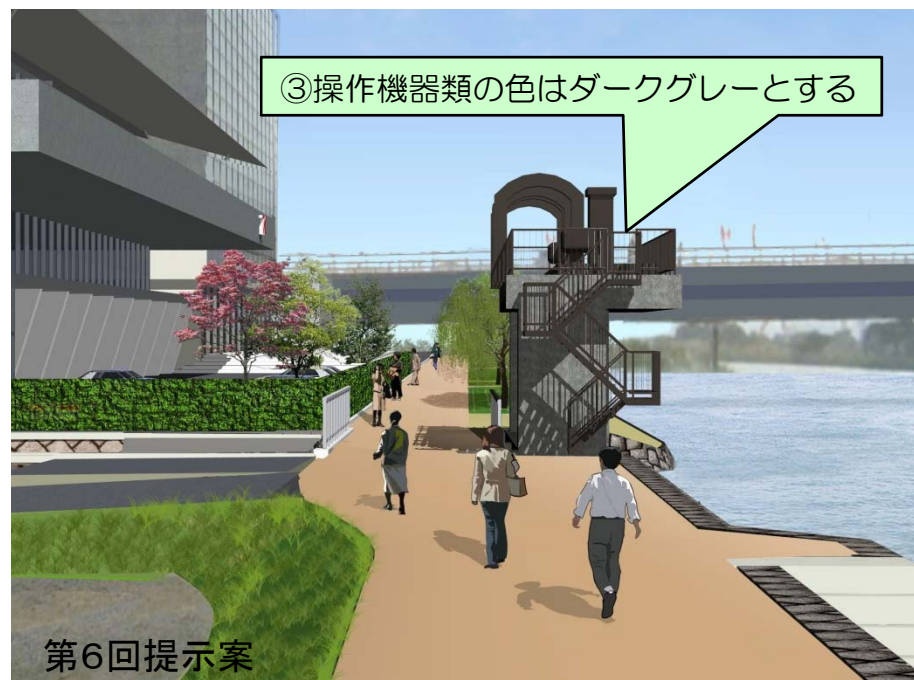
- ・操作機器類等の色と調和し、時間の経過とともに落ち着いた風合いになるため、ゲート扉体の色をステンレス鋼材の地の色とする。

③操作機器類等の配色

- ・操作機器類や転落防止柵は周辺の風景に合わせたダークグレーとし、その風合いについて、今回（第7回）の会議で決定する。（色見本を作成し比較）



対岸景



流軸景

2. 操作機器類等の配色について

操作機器類等の配色の検討

- 景観に配慮した防護柵の整備ガイドラインにおける基本色をもとに計5色を比較対象とする。

※下のフォトモンタージュでは、

- ①操作機器類等を景観に配慮した防護柵の整備ガイドラインのダークグレー(10YR4.0/0.5)としている。
- ②ゲート扉体の色はステンレス鋼材の地の色としている。



対岸景





流軸景

〈参考〉 操作機器類の配色 比較表

配色決定における検討事項

- 景観に配慮した防護柵整備ガイドラインでは、グレー系として2色(ダークグレー、グレーベージュ)の候補が提示されている。
- ガイドラインのグレー系2色と明度を変えたもの3色の合計5色を比較する。
- 前回会議時に、景観ガイドラインのダークブラウン(明度2~3)を提示し、圧迫感があるとの意見があったため、明度4以上を比較対象とする。

景観に配慮した防護柵整備ガイドライン 基本色彩	2005年度 C版 色見本 (参考)	アドバイザー会議 提示
	CN-40 N4 	N4
ダークグレー(濃灰色) 10YR3.0~4.0/0.25~0.5程度	C19-40B 10YR4/1 	10YR4.0/0.5
	CN-50 N5 	N5
グレーベージュ(薄灰茶色) 10YR6.0/ 1.0~1.5程度	C19-60B 10YR6/1 	10YR6.0/1.0
	CN70 N7 	N7

3. コンクリート表面仕上げ方法の見直し

□ コンクリート表面仕上げの方法について（向島川樋門）

前回（第6回）アドバイザー会議にて、「コンクリート表面仕上げは洗い出し仕上げとする」と説明した。

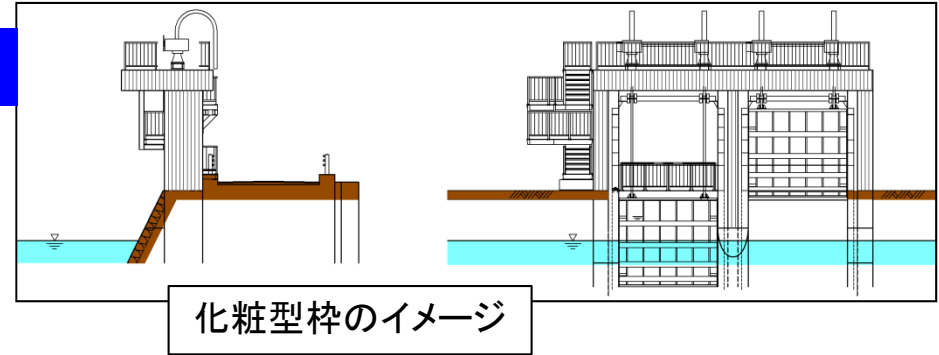
しかし、本樋門の様に、高さの高い構造物においては、コンクリート打設後、短期間での脱型は、コンクリートの品質上困難であることから、表面処理方法の見直しを行う。

第6回 大橋川景観アドバイザー会議資料より抜粋(コンクリート表面処理の比較表)

案	①コンクリート	②モルタル刷毛引き仕上げ	③洗い出し仕上げ	④はつり仕上げ	⑤化粧型枠	⑥カラーコンクリート	⑦石材切り出し加工 (床石など)	⑧石材割風加工 (床石張りなど)
	コンクリート打設による標準的な打ち放し仕上げ	コンクリート面にモルタルを塗り、その表面を刷毛引きにより粗面とする。	コンクリート表面のモルタルを洗い流すことにより、骨材を生かした仕上げとする。	ポンプ等の工具を利用して、コンクリート表面を粗面とする。	表面を加工した型枠を使用し、コンクリート表面に凸凹や模様をつける。石積み模様やはつり等様々なパターンがある。	①のコンクリートに色粉を混ぜ、色合い調整したもの	地場産の床石をバラベットの形状に切り出したものを敷き付ける。	コンクリート面に地場産の床石の平石(割風加工)を張り付けた仕上げとする。
仕上げイメージ								
景観性	明度	7以上 ×	6以下 ○	6以下 ○	6以下 ○	6以下 ○	6以下 ○	6以下 ○
	テクスチャー	色や明るさが均一 ×	1案より多少変化がある △	骨材が変化を与えている ○	同左 ○	任意の意匠が可能 ○	1案と同じ ×	石材は質感が高い ○
護岸(粗面ブロック)との統一性	統一性に欠ける ×	ブロックとの統一感はやや低い △	ブロックとの統一感はやや低い △	ブロックとの統一感はやや低い △	護岸に近い意匠が可能 ○	色合いは合わせられる △	統一性に欠ける ×	統一性に欠ける ×
周辺景観との馴染み	周辺景観に対しが目立つ ×	1案より多少良くなる △	目立たず背景となる ○	目立たず背景となる ○	人工的であり目立つ △	目立たず背景となる ○	目立たず背景となる ○	目立たず背景となる ○
施工性	一般的 ○	刷毛引きの手間がかかる △	水を使用する場合は漏水処理が必要。水を使用しない方法もある △	はつり作業は手間がかかる △	一般的 ○	汎用性が低い △	作業に手間がかかる △	作業に手間がかかる △
耐久性	問題なし ○	同左 ○	同左 ○	同左 ○	同左 ○	顔料の色落ちがある △	車両衝突による破損が懸念される △	同左 △
コスト(直工) 円/m	26,200 (1.00) ○	30,600 (1.17) △	水使用 28,550 (1.09) 水使用しない 29,818 (1.14) △	47,100 (1.80) ×	43,200 (1.65) ×	30,700 (1.17) △	205,500 (7.84) ×	102,300 (3.90) ×
評価	コンクリート打ち放し仕上げは色の明度が高く、また、表面も人工的でのっぺりしており、景観上好ましくない。	刷毛引きにより表面を粗面にはできるが、凹凸まではつられないため、陰影・立体感には乏しい。	下流部の河川景観に求められる機能は満足し、周辺から目立たない色合いとなる。コストもコンクリートに対し1割程度のアップでおさえられる。	コンクリート表面をはつることに、テクスチャーに立体感をつける。加工手間がかかり延長が長くなる場合は不向きである。コスト面でも劣る。	化粧型枠には様々なパターンがあり、色彩・テクスチャーの調整が可能である。経済面では割高となる。	コンクリートに色粉を混ぜることにより、色彩を護岸ブロックに合わせることができる。しかし、テクスチャーは①のままである。	市街地には島石を加工したバラベットの一部分があるが、形状は小断面である。形状が大きいものになるとコスト面で合わない。	自然石を使用することで景観的には優れたものになる。コスト的には割高。
	×	△	○	×	△	×	×	×

3. コンクリート表面仕上げ方法の見直し

- 化粧型枠（縦リブ）を採用する。
 - ・縦リブにより構造物に引き締まった印象を与える。
 - ・陰影により壁面の明度を抑える。



	コンクリート打放し	コンクリートはつり	化粧型枠(縦リブ)
使用事例			
特徴	・コンクリート面が目立つ。	・コンクリート表面の凹凸により陰影が生じ、明度を抑える事が出来る。	・型枠の凹凸により、コンクリート表面に陰影や模様を付けることで、明度を抑える事が出来る。
コスト	0円/m ² (通常) (0. 0) △	表面はつり仕上げ 5,000円/m ² (上写真 : はつり深さ 4~5mm 程度) (0. 9) △	5,500円/m ² (上写真) (1. 0) ○
評価	表面は通常のコンクリートの仕上げであり、目立つ建築物になる。	他工法に比べ、コンクリート打設後の表面仕上げの作業手間が増す。	縦リブにより引き締まった印象を与える。陰影により、壁面の明度を抑える。